



令和2年11月1日現在	
世帯数	: 804世帯
人口	: 1454人
男	: 703人
女	: 751人

第一地区の高齢者と救急医療情報キットについて

第一地区は令和2年10月現在、804世帯1460人が暮らしています。そのうち65歳以上の高齢者は422人、高齢化率は28.9%と高くなっています。また、独居高齢者は96人で、65歳以上の方の22.7%にあたります。昨年は80人、18.5%でしたので、増加する傾向にあります。

高齢者のまわりには、様々な危険や思いもよらない落とし穴が潜んでいます。

今年8月、第一地区で、一人暮らしの高齢者が体調を崩し、近所の住人に救急車を呼んでもらうという事例がありました。そのとき、保険証の在りかや、既往症や普段飲んでいる薬などの情報が何もなく、とても困ったそうです。

このようなときのために、松本市高齢福祉課では、「救急医療情報キット」というものを用意しています。

自身のかかりつけ医療機関や、親族の緊急連絡先など、救急時に必要となる情報を書いた「救急情報カード」を専用ケースに入れて、冷蔵庫で保管し、もしもの時にかけてきた救急隊員がその情報を活用できるようにしようというものです。

松本市高齢福祉課に申請すると、専用ケースと冷蔵庫に貼り付ける磁石の「保管場所シール」がもらえます。

また、自宅以外で倒れた時などには、申請時に登録された市が保管している情報を関係機関に伝達する仕組みになっています。

キットの支給対象者は次の方たちです。

- 松本市避難行動要支援者名簿に掲載されている方
- 独居または日中独居、同居家族の疾病等の理由により、救急隊員が救急活動に必要な情報を把握することが困難になる可能性がある方

※年1回、再申請の必要あり

8月に倒れて、救急搬送された女性は、幸いにも今は回復し、また、元気に一人暮らしを続けています。この方は「救急キットのことをみんなに知ってほしい。一人暮らしの高齢者には絶対必要です。」と話してくれました。

救急医療情報キットは、第一地区地域づくりセンター（第一地区公民館）にもあるそうです。

「備えあれば憂いなし」です。みなさんもぜひ、検討してみてください。



問い合わせ先

松本市役所 高齢福祉課
電話 34-3214
第一地区地域づくりセンター
(第一地区公民館)
電話 32-11550

Presented by 視聴覚委員会



ハッピーハロウィン♪
すくすくひろば 10月16日 (金)

行事あれこれ



手足を動かし脳トレ!
かんたんストレッチ 10月27日(火)

がんばっています！公民館委員会

第一地区公民館では、地区のみなさんの協力により委員会を設置して、関係団体と連携しながら講座や行事を開催しています。公民館委員として、一緒に活動をしていただける方を募集しています。

お問い合わせは、第一地区公民館（電話32-1550）までお願いします。

各委員会の活動、委員のみなさんをご紹介します。（◎委員長 ○副委員長 ※敬称略）

館報委員会

年6回(奇数月)に発行される公民館報第一地区版の取材、編集等を行っています。

紙面の充実を図るため、みなさまのご意見を第一地区公民館までお寄せください。

- ◎ 田内 正一
- 横沢 敏
- 岩原 正勲
- 山内 敦子
- 伊藤 善立
- 白井 充子
- 山口 はるな



編集会議の様子

運営委員会

第一地区公民館の活動を円滑に進めるため、関係団体の代表等が委員となり、公民館事業全般について協議しています。

- ◎ 田中 修
- 犬飼 陽一
- 春日 孝介
- 田内 正一
- 分部 由里
- 伊藤 峯一
- 原 昌子
- 真島 富男

- 村山 孝幸
- 村山 さえ子



文化委員会

世代間交流や地域文化を伝承するための事業を実施しています。

今年は中止となりましたが、子ども会育成会や食生活改善推進協議会等の関係団体と連携して、「青木様・ぼんぼん」「餅つき大会」を開催しています。

- ◎ 犬飼 陽一
- 神木 笑子
- 内藤 英昭
- 中原 啓
- 高橋 明利
- 深澤 健能
- 寺沢 厚子
- 中畑 幸子
- 花村 麗子
- 太田 千代子
- 鷺沢 寿美子



餅つき大会 準備時の様子 (写真は昨年のも)

視聴覚委員会

地区内の行事や街並みを写真で記録するため、さまざまな場所で撮影をしています。公民館報でも写真を紹介しています。

デジカメ講座も企画しています。ぜひご参加ください。

- ◎ 分部 由里
- 宮島 幹治
- 山崎 眞生夫
- 長崎 俊夫
- 有江 一記
- 駒形 勝子
- 伊藤 善立
- 永井 昭
- 佐久間まゆみ



デジカメ講座撮影会(上高地)の様子

電車通り

仕事柄、岐阜県の土岐・瑞浪方面への出張が毎月あって、緊急事態宣言のあった4月5月も欠かさず泊付きで出かけている。もともと観光客も少なく、以前から駅前には店も人通りもなかった。緊急事態宣言中もその後でも街の様子にはほとんど変化がなかった。それでも昼時に定食屋に入ってみると地元客で普段通りの賑わいがあり、夜にはラーメン屋や焼肉店の看板は遅くまで点灯していた。ビジネス向けのホテルも客足が落ちた感はない。人々がマスクを着けていることを除けば、昨年と変わらぬ日常が続いている。松本はミシュランガイドで星が付く観光地だけに、海外や首都圏を中心とした観光客が蒸発した結果、中心市街地をはじめ多くのエリアが閑散としてしまい、それを見た地元住民も外出を自粛するという悪循環に陥ってしまったのではないだろうか。最近ようやく観光客の姿を目にするようになったが、冬に向けて観光需要が減少していくことを考えると、感染状況には十分に配慮をしながらも、これまで通りの日常を心掛けたいと思う。